

飼料添加物「テトラサイクリン系物質」の指定取消しについて

テトラサイクリン系物質(※)を添加物として含有する飼料は令和元年12月27日以降使用禁止となりました

※アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン及びクロルテトラサイクリン

抗菌剤であるテトラサイクリン系物質は、治療以外の目的で添加物として飼料に含まれている場合があります。テトラサイクリン系物質を飼料として常用すると、テトラサイクリンに対して抵抗性を持つ菌（耐性菌）が増えることが懸念されます。

テトラサイクリン系物質を飼料添加物として含む飼料が在庫にあれば、廃棄しましょう。

当該抗菌性飼料添加物を含有する飼料を使用すると、**飼料安全法違反**になりますので、ご注意ください。

テトラサイクリン系物質含有の確認は飼料成分表をご覧ください

〇〇飼料

原材料名 等

製造年月日 平成〇年〇月

飼料の名称 〇〇〇〇

飼料の種類 △△△△

：

：

含有する飼料添加物の名称及び量

クロルテトラサイクリン〇kg/トン、ビタミンA、...

飼料成分表に

含有する飼料添加物の名称が記載されています。

「アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン」もしくは「クロルテトラサイクリン」が含まれていないことをご確認ください。

岐阜県中央家畜保健衛生所

〒501-1112 岐阜市柳戸1-1

TEL : 058-201-0530

FAX : 058-201-0531

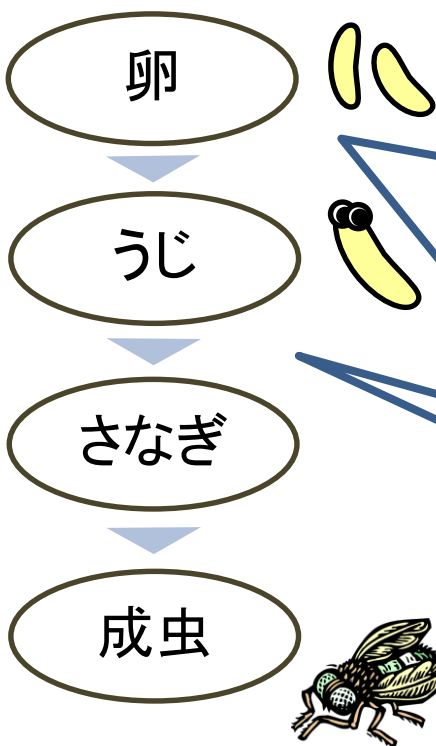


寒いうちにハエの防除対策を始めましょう

気温が上昇するとハエは大量発生し、家畜へのストレス・病原体の媒介・近隣からの苦情など深刻な弊害を生じます。薬剤を適切に使用し、防除に努めましょう。

成虫が増えてからでは対応しきれない場合もあります。気温が低い今のうちに対策をすると効果的です。

★ハエのライフサイクルと対策★



対策の基本

1. 発生源対策

・除糞・乾燥

畜房のすみ、残餌、汚水だまり等を清掃し、ウジが育つ場所をなくします。

・適切な堆肥処理

発酵熱と乾燥でウジを退治します。温度が40℃以上、水分50%以下の条件でふ化率が激減します。

卵がふ化しない1週間以内の間隔で切り替えしを行うことが重要です。

ここを重点的に

2. 幼虫対策

・昆虫発育抑制剤(IGR剤)の使用が有効です。薬剤の容量・用法を守り、適切な間隔で十分な量を均一に散布します。

幼虫は薬剤への抵抗力が低く駆除しやすいです。

3. 成虫対策

- ・ハエが増えてきたら、IGR剤の散布回数を増やし、毒餌法をあわせて実施します。
- ・家畜やペットが誤って口にしないよう注意して行ってください。

【注】畜産物に殺虫薬剤を残留させないため、畜体への直接噴霧を認められていない薬品を使用する際には、家畜に暴露させないこと、休薬期間(使用禁止期間)を守ること等、定められた用法・用量を守って使いましょう。また、使用の際には記録を残しましょう。